

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8 年 3 月 16 日

公表:令和 8 年 4 月 1 日

事業所名 希望の丘蒲郡

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		もう少し職員同士で話し合う時間を作っていきたい。	全員が集まり話し合いをすることが難しい為、共有ノートを活用し伝達を行っています。実際に言葉を交わし合うことで伝わる部分も多いので、今後でもできる限り話し合う時間を確保していきたいと思います。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			毎年2月に事業所向け自己評価及び保護者向け評価を実施し、4月にホームページで公表しています。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は受けていないので、今後検討します。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		虐待防止の研修や発達特性の理解の研修(外部)など。	関連施設と月1回のペースでZoom会議(ケース検討会議)を開催しています。その他、学園研修なども行っています。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			アセスメントを取る職員だけでなく全職員から聞き取りをし、子どもの理解を丁寧に行った上で支援計画の作成に繋げています。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			毎月職員で話し合い、翌月のプログラムを立てています。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎月、週ごとに活動を設定し、掲示している。職員間で声を出し合っている。	週毎にプログラムを変えることで、活動が固定化されないように工夫しています。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休暇にしかできない支援プログラム(買い物体験やクッキング等)を設定し、提供しています。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	△		開始直前の打ち合わせにならないよう、前もって行っていききたい。パート職員に伝えきれていないことがあるので、毎回丁寧に伝えていききたい。	支援に入る前に、その日何をするのか打ち合わせをしています。日によって入るパート職員が違うからこそ、パート職員とは正規職員以上にしっかりと情報共有が必要だと考えています。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		△	後回しになってしまうように振り返りをし、全体に共有をしていききたい。全職員で共有はできていないと感じることがあるので、どうしたら共有できるのか考えていききたい。気づいた点はなるべくその時に話すようにしている。	その日のうちに振り返りができず翌日になることもあり。できる限りその日のうちに行えるよう、業務の進め方や時間配分などを検討していきます。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			『ケア記録』として残し、支援の振り返りができるようにしています。(全職員が必要なタイミングで確認ができるようになっています)
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者の方を通して情報を共有していただき、対応するように工夫している。	必要や要望に応じて、小学校と連携会議を行っています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/	対象者なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保護者の方から様子を共有してもらっている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/	対象者なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			放課後等デイサービスにおいては助言や研修をうけることができていません。今後、検討していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		△	併設するむつみの丘とは行事や外遊びを通して交流することがあるが、児童クラブ等との交流は現在ない為、同年代とも関わる機会があればと思う。 隣接する公園に遊びに来ている子と交流することがあった。	児童クラブや児童館に出向くことはなかなか難しいですが、隣の公園に遊びに来る小学生との交流を積極的に行っていこうと思います。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		児発管が参加し内容を共有している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎の際に様子を伝え合い、関わり方を一緒に考えたり話し合ったりする時間を必要に応じて作っています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		△	案内のチラシを掲示している。 送迎時など家庭での関わり方の悩みを聞き、一緒に考える機会を作っている。	ペアレント・トレーニングとしては行っていませんが、必要な方へはその都度一緒に考えたり、施設等で行っている支援方法をお伝えしたりしています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送り迎えの際、保護者と子どもの様子について伝え合っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		土曜日の親子イベントの際、保護者交流会の場を設けている。(2~3か月に1度)	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		クラウドサービスにて発信している。また、玄関口にも掲示することで分かりやすいよう工夫している。	月に1度紙面で伝えるとともに、クラウドサービスでもお知らせしています。
	35	個人情報に十分注意している	○			クラウドサービスでの発信時、顔が特定されないような配慮をしています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	現在地域住民を招待する機会は少ないが、今後設けたいと考えている。	見学の受け入れは常時行っていますが、事業所の行事への招待等については行っていませんので、どのような形なら実施が可能か今後検討していきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		委員会を開き、情報を共有している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		非常時に備え、各自預かり備蓄の用意をいただいている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		△		現在対象者になり得る利用児はいませんが、身体拘束に関する職員の知識向上には努めていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	/	/	対象者なし	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			